

町では、『まち・ひと・しごと創生』のための“総合戦略策定”に向けた取り組みが始まっています。

策定に向けた勉強会やシンポジウムの開催、様々な専門分野の委員による有識者会議をこれまで3回開催しました。国見町の魅力を見つめなおし、まち・ひと・しごと創生を推進する「4つの柱」が有識者会議の中で提案されました。

発見

地域資源を活かした地域ブランド・コミュニティビジネス創出によるしごとづくり

強み

国見町は、奥羽山脈と阿武隈山地の山々に挟まれ、阿武隈川水系により形成された水田、樹園地、川、山林などあらゆる自然環境が豊かで、町の面積の35%が農地です。基幹産業は農業であり、米、桃、りんご、あんぼ柿など豊かな農産物が生産されています。

方向性

●持続可能なまちづくりのため、農業の活性化には「豊かな土壌と水、光」そして、農業に本気で取り組む人々が欠かせません。国見の農業を活かすため、ブランディングと6次化により「しごとづくり」を目指します。



発信

町の魅力を活かした歴史文化観光・農業観光による地域交流づくり

強み

国見町の歴史は、1000年以上前まで遡ります。この地で暮らす人々の日々の営みから紡ぎだされた知恵やわざが積み重なった歴史でもあります。

方向性

●平成27年2月に「国見町歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり計画）」が国の認定を受けました。この地で1000年以上培われてきた人々の知恵、文化、わざ、歴史を受け継ぎ、今を生きる私たちの思いと願いを付け加えて、後世に引き継ぐこと。これらを活かしたまちづくりを目指します。



動き出す国見町

～くにみ版まち・ひと・しごと創生～

発達

地域力を活かした結婚・出産・子育て支援・教育推進のネットワークづくり

強み

国見町は、統合により幼小中一貫教育となりました。また、学校・家庭・地域が一体となって、それぞれの立場で地域の子どもたちの成長を支え、人づくり、学校づくり、まちづくりを目的とする「コミュニティ・スクール」を推進しています。また、子育て中のママ（パパ）を支援する「場」としてママまつりを開催しています。



方向性

●これからの担い手となる子どもたちのまちづくり参加や人材育成のため、ふるさと学（地元学）などによる郷土愛の醸成を目指します。
●子育て中のママ（パパ）の思いや願いを聞き、それを実現するための「場づくり」とママのネットワークづくりに取り組みます。

発展

地の利を活かした人が行き交う地域交流の拠点づくり

強み

国見町は、旧奥州街道・旧羽州街道が通り、小坂、藤田そして貝田の3つの宿場町に代表されるように、古くから交通の要衝としてその利便性に優れ、複数の峠が存在する境界の地でもありました。商店街から豊かな自然に囲まれた農村地帯まで、地域の表情は多様です。



方向性

●震災からの復興・再生のシンボルとして「(仮称)里まち文化ステーション（道の駅）」の平成28年度の完成・オープンを目指し、にぎわいの創出と活力のあるまちづくりに取り組みます。

～第5次振興計画と総合戦略の関係・これからの進め方～

振興計画と総合戦略の関係は、振興計画が様々な分野の施策を総合的に包含した総合計画であるのに対し、総合戦略はまちづくり、ひとづくり、しごとづくりの分野に特化し、振興計画を具体化するための専門計画であり、振興計画に即して策定されます。

総合戦略は、その成果を確実にものとするため、評価と修正を繰り返すPDCAメカニズムを導入します。初版となる『国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略』は10月末を目途として策定します。

また、11月からは第5次振興計画（後期計画）の策定に取り組みます。策定される『まち・ひと・しごと創生総合戦略（初版）』を取り込みながら、加えて、ワークショップなどにより、町民みなさんと協同で策定することとします。

まち・ひと・しごとづくり シンポジウム開催



8月22日、観月台文化センターで「地方創生まち・ひと・しごとづくりシンポジウム」を開催しました。

民俗研究家の結城登美雄さんを講師に、第1部では各地区のお母さんたち18名と座談会を行いました。お母さんたちには漬物や煮物などそれぞれ家庭料理を持ち寄ってもらい、食べ比べながら、作り方や家ごとの特徴などを意見交換し、普段の料理の魅力を見つめ直す機会となりました。

第2部は、結城さんが「地元学から食の文化祭まで」をテーマに講演を行いました。「食と農」というあたりまえの資源から、地域活性化につなげていくためのヒントを教えてくださいました。